



これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

- しめきり 7月11日必着
 - あて先 〒783 南園市大通甲二〇〇一 南園市企画課 親子クイズ係
 - 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
 - ◎第278回親子クイズの答えは、懐中電灯でした。
- 第278回当選者発表(敬称略)
(応募総数17通)
- 中山恵津子(上末松)
 - 高木美和子(前浜)
 - 松崎三男(緑ヶ丘)
 - 藤原如月(大埔)
 - 西森美沙希(陣山)

☆ 思い出がいっぱい ☆

- ◆子供が小さいので、懐中電灯を見るよりもくっつけたり、消したりして遊ぶので困っています。
- ◆阪神大震災があったあと、リネックサックを避難袋にし、その中に一つ、リネックナックは二つ用意、家用に一つ、合計三つ用意しているが、使うことのないことを願っています。
- ◆以前は懐に入るので懐中電灯だったのではないのでしょうか。今は懐に入らない電灯が多くなったので「ライト」でいいやら懐中でいいやら迷ってしまいました。
- ◆子供のころ、生家の前の山にはいくつも防空壕が残っていました。学校から帰ると生家の友達と連れ立って、懐中電灯を片手に防空壕の中を探検して、後で親にしかられたものでした。
- ◆うちの子供はかみなりがなっている、懐中電灯を持って離しません。
- ◆懐中電灯を壁に照らして動かし、猫をじゃれさせて遊んでいました。
- ◆小学生のころに、懐中電灯をあてて、「お化け」とよく遊んでいました。



みんなのひろば

広場



被災地から感謝を込めて

久礼田体育会ご一同様

震災時の皆様の親身も及ばぬお世話、今でも感謝しています。また寒い時期、皆様に心を込めて作っていただいた温かいもの、本当にうれしく思いました。おかげさまで、神戸市も水道、ガスなど少しずつ回復しています。避難所の方もずいぶん人数が減り、寂しくなってきました。みんなが1日も早くもとの生活に戻るよう頑張っています。皆様も、元気でますますご活躍されますようお祈りしています、ありがとうございました。

神戸市立飛松中学校 避難所一同 代表 松岡未美

私たちの生活を一家させたあの恐ろしい地震から、早数か月、不便な交通事情の中、食材を積んで駆けつけられた炊き出しは、一生忘れられないことでしょう。本当にありがとうございました。ガスも四月初めに復旧し、ライフラインは元に戻りました。避難所生活を送っていた人たちも多くが家に戻ったり、仮設住宅に移転しました。復旧にはまだまだ長い道程が続きますが、頑張って1日も早く活気ある神戸を取り戻したいとおもっています。皆様のますますのご活躍をお祈りしています。

神戸市立飛松中学校 炊き出しグループ 宇都田鶴子

もありがらう。メキシコに入ると、国境を越えるだけでこんなに違うのかと驚くくらい様子が一变する。道路も町もキタナイのだ。前を走る車は思いつきり黒い排気ガスを吐き、五分も走らないうちに病気になる。うらち、原因不明の顔の左半分がスイカみたいにくれる病気がかかっていた。首都メキシコシティまで急ぎ、病院に行くと、いきなり「手術」と言われて「ゲッ」と思ったが、幸い十五分くらいの簡単な手術だった。テレビでは、毎日のように南部のゲリラのニュースをやっていたが、二二数日、一段とテロが激しくなり、政府軍との間で市街戦まで始まった。こ



ルマンディの街角で

れ以上進むのは危なくなってきたので南米行きを断念、思案の末、東海岸からヨーロッパに向かうことにした。途中、ミシシッピ川にさしかかったが、湿地帯になっており、これをぬけるのに実に二日を要した。

ルアーバというフランス北部の港町から、ヨーロッパの旗がスタートした。なだらかな丘の続くフランスを横切りスイスへ、下の方が少しだけ見えたマッターホルンに「オー」と言ったあと、スペインへ急いだ。安くてうまい食べ物と、気さくで親切な人たち、そして美しい女性の多いこと、スペインは十っかり僕のお気に入りの国になってしまった。スペイン最南端のジブラルタルから、フェリーでアフリカ大陸を少しのぞいてみると、奥へ引き込まれるような不思議な魅力を感じた。

長い旅も終わりに近づき、フランスのマルセイユまで地中海沿いに降り、神戸まで三万五千円という貨物船でバイクを日本に送り返し、半年ぶりに日本に降り着いた。そのときの体重は五十一。まで減っていた。

「自転車で世界中を旅してみた」少年のこの夢を実現させようと、一九九三年十月、ぼくはカナダへと出発した。少年の自転車は、オンチャンのオートバイに変わっていた。

計画では、カナダからアメリカメキシコを通り中米そして南米のブラジルが最終目的地だった。出発地カナダのバンクーバーでは、バイクを乗せた船の検疫に少し手間取ってしまったが、税関や保険の手続きもスムーズにいき、十月二十七日、長い旅が始まった。ロッキー山脈の山々に雄大で、圧倒的スケールを持って迫ってきた。自然を大切にしているからか、ガ

ードレールのすぐ横まで大きな鹿が出て来ていて、最初に出会ったときは驚いてバイクごと転倒しそうになった。ロッキーから降りたハイウェイでは、あまりの直線道路と二時間走っても全く変化のない風景のせいで、まるで止まっているような妙な錯覚に落ちこぼれてしまった。

アメリカに入り、暖かいと思っていたら夢のカリフォルニアで突然、親指の先ぐらいのあられの攻撃に合った。とても痛く、ヘッドライトのガラスに穴が開



カナディアンロッキーの雄大な山並み

いてしまった。また、アリゾナの荒野のど真ん中ではパンクしてしまい、冷汗タラタラになったこともあったが、この時は通りがかりの車に助けられ、今となっては笑い話になっている。メキシコとの国境にある町エルパソで準備のため二週間留まった。いつものように二千円程度で泊まれるモーテルを利用して、いた僕は、メキシコから動きにきているモーテルの掃除のおばさんを通じて、スペイン語を覚えてもらった。おばさんどう



「夢をかなえに……」
～アメリカ・ヨーロッパのんびりツーリング～

南園市内の結婚式場に勤務する久枝在住の能瀬隆志さん(42)。中学校一年生のときにオートバイに興味を持ち始め、現在は、五十歳から五百歳まで七台ものオーナーです。「オートバイは止まると倒れてしまう。だから走り続ける」という能瀬さんにとって、「世界中を旅してみたい」というのは長年の夢でした。そして平成五年十月、それまで勤めていた会社をやめ、計画を練り、ランニングなどで体力づくりをし、英語を勉強し、万全の体制で、夢に向けての第一歩を踏み出しました。

相棒、ヤマハSR500と共に、半年かけて旅した北アメリカ、ヨーロッパ、そのときの様子を紹介してもらいます。